

えがお



令和7年度
No.3
8月27日



バックナンバー

伊那市よりよい教育環境推進連絡会

西春近北小学校 2年 「お芋屋さんとの交流」

7/1



西春近北小学校の2年生の皆さんは、1年生の時から、生活科で焼き芋づくりに取り組んできました。

プロの焼き芋スイーツの秘密を学びたいと、この日は、楽しみにしていたお店の見学に来ました。

よっしーさんは、3年前に駒ヶ根に移って来て「よっしーのお芋屋さん」(駒ヶ根市赤穂14-1528、TEL 070-6977-9877)を開きました。おいしい焼き芋やスイーツをめあてにテレビの取材も多く、店内には芸能人のサインや写真がたくさんあり、お弟子さんたちも全国にいて、この日も6、7人の方が勉強に来ていました。

2年生の皆さんは、今年は焼き芋からおいしいスイーツを作りたいと思って、生活科の学習に取り組んでいます。まず、よっしーさんから「お芋チップス」のお話を聞きました。駒ヶ根産の「しろほろり」を丁寧に洗ってスライスし、低温からじっくり温度を上げながら3時間もかけて焼き上げた「お芋チップス」をなんと試食させてもらいました。さらに、サツマイモのソフトクリームもいただきました。2年生の皆さんは、大喜びでいただきながらも、お話をたくさんメモしていて、よっしーさんの熱い思いやこだわりをしっかりと感じているようでした。この後、焼き芋スイーツ作りを頑張っている2年生のためにと、特別に倉庫を見学させていただきました。よっしーさんにたくさんのことを教わった2年生が、これからどんなスイーツを作っていくのか楽しみです。



講師のよっしーさんと吉村ゆうじさん



よっしーさんと駒ヶ根産「しろほろり」をスライス。



低温で3時間かけて焼いた「お芋チップス」を食べました。



お芋を食べながらも、よっしーさんの話をきちんとメモします。



本物の焼き芋の味と香りがしっかり味わえるソフトクリームでした。



サツマイモを冷蔵保存している倉庫に特別に入らせてもらいました。



お店の前で、みんなで記念撮影！

西箕輪公民館 戦後80年平和企画映画会 7/26

映画:語り継ぐ伊那谷の戦争「いのちありて」伊那高女学徒動員の記録

お話:「学徒動員で連れていかれた名古屋は、地獄のような戦場だった」



西箕輪公民館で、戦後80年平和企画映画会が行われました。

前半は、伊那高等女学校(現弥生ヶ丘高校)33回生の皆さんが、太平洋戦争末期の昭和19年8月に学徒動員により三菱重工名古屋航空機製作所に連れて行かれ、特攻用のゼロ戦の製作をさせられたこと、空襲で学友を亡くしたこと等を記録したドキュメンタリー映画「いのちありて」が上映されました。大きな軍需工

場が集まっていた名古屋は米軍の空襲が繰り返されており、昭和20年3月の空襲で、学友の飯島さんが亡くなりました。生き残った33回生の皆さんは、平成17年3月、弥生ヶ丘高校に慰霊碑を建立しました。



お話:有賀 ひで子 さん



聞き手:竹内 恵子 さん

後半は、33回生の有賀ひで子さん(96)から、月刊『伊那路』掲載の「敗戦末期、ひで子さんの『いのちありて』」の筆者である竹内恵子さんが聞き手となり、当時の様子をお伺いしました。貧しい食事をとり黙々と飛行機の尾翼を作っていたこと、土を掘っただけの防空壕、爆撃による死者の凄惨な様子、生徒を守った先生方、戦後見回りに来たGHQの米兵は意外にも怖くなかったこと、朝鮮の人たちは差別され可哀想だったこと等、様々な体験をご本人からお聴きできました。

質問の時間には、このような地域の戦争の歴史を、今後どのように伝えてくかが課題だという意見交換も行われました。西箕輪公民館の6月21日と今回の戦後80年平和企画で、地域の戦争について学ぶ貴重な機会をいただきました。



小学生夏休みおいで塾



①実施期間(土日を除く) ②参加人数 ③主な活動

市内の公民館では、夏休みに小学生対象の「おいで塾」が開校されました。児童の皆さんは、他の学校や異年齢の児童と共に過ごしたり、地域の大人や高校生と関わったりしながら、充実した学習や楽しい体験ができました。

【伊那公民館夏休みおいで塾】

- ①7/24~7/30 ②120人
③学習、映画鑑賞、ニュースポーツ、工作、おやつ作り、エコジオ学習、高遠歴史博物館見学



ゼリーを作りました。

【富県公民館夏休みおいで塾】

- ①7/25~7/29 ②70人
③朝読書、学習、雑巾縫い、博物館見学、お天気教室、田楽座体験活動、他



ペットボトルで雲を作る実験

【美篤公民館きらめきおいで塾】

- ①7/28~7/30 ②55人
③学習、ニュースポーツ、木工体験、読み聞かせ、ヘビのお話、映画鑑賞



ボールニシキヘビにさわりました。

【手良公民館おいで塾】

- ①7/25~7/30 ②56人
③学習、映画鑑賞、レクレーション、座禅、百人一首、読書、運動、工作、カップインワン



常光寺さんでの座禅体験

【東春近 夏のふれ愛学習教室】

- ①7/28~7/30 ②45人
③学習、映画鑑賞、ニュースポーツ、エコジオ学習・工作



プラバンのアクセサリ作り

【西箕輪公民館通学学習】

- ①6/16~6/20 ②33人
③学習、エコジオ学習、ボードゲーム・カードゲーム、マレットゴルフ、調理実習、英語でしゃべろう



マレットゴルフ

【西春近民館おいで塾】



忠魂碑に献花した後、記念撮影

①7/22～7/24 ②99人

③学習、流しそうめん、レク、クイズ大会、映画鑑賞、おもしろ算数、戦争のお話

【高遠町公民館進徳館夏の学校】



劇「入野谷郵便」を観ました。

①7/25～7/30 ②64人

③学習、論語の素読、高遠町歴史博物館見学、ジオ・エコ関連講座、演劇鑑賞 他

【はせっこサマースクール】

①7/28～7/30 ②54人

③学習、座禅体験、プール、常福寺住職の講話、プラネタリウム鑑賞、メタバース体験、ポン菓子づくり



ポン菓子づくり



西春近おいで塾・高遠進徳館夏の学校での「平和学習」



野溝弘文さん

西春近公民館のおいで塾では、「平和の語り部」教室で、西春近遺族会の野溝弘文会長さんから、戦争の始まりから終戦までのお話を聞き、西春近の人たちがどこで亡くなったか、ひとり一人の名前の入った地図も見せていただきました。その後、公民館の近くにある「忠魂碑」に行き、献花をして、戦争で犠牲になった人たちを偲びました。



高遠そばの会代表 飯島進さん

高遠町公民館「進徳館夏の学校」では、伊那ライオンズクラブの皆さんによる「入野谷郵便」という劇が上演されました。この劇は現存する手紙を元に脚本が作られ、戦時中に食糧増産の国策により入野谷そばが生産中止となり、収量の多い品種を育てることになったこと、赤紙が来て召集され、戦地から家族に送る手紙は検閲があるため事実を伝えられない状況だったこと等が演じられました。劇の後には、入野谷そばを復活した飯島進さんのお話もお聞きました。

中学生の自習室

伊那市教育委員会では、中学生に夏休み中の学習場所と昼食を提供し、自主的に学びを深め、規則正しく過ごすことができるようにという目的で、8月4日～8日の午前中、伊那公民館、美篤公民館、西箕輪公民館、西春近公民館、高遠町公民館「やすそ」の5会場で、「中学生の自習室」を実施し、129名の生徒が参加しました。



【参加した生徒の感想】

○周りが勉強しているので、自然と「自分も勉強しなきゃ。」という気持ちになり、集中して取り組みました。
お昼ご飯もおいしかったです。

○家より集中して学習が進められました。
分からない部分を友だちや講師の先生に教えてもらい、解けるようになってよかったです。

【軽食メニュー】

- ・8/4(月) 冷やし中華、ヨーグルト
- ・8/5(火) サンドイッチ、野菜のスープ、バナナ
- ・8/6(水) キムタクご飯、コンソメスープ
- ・8/7(木) サラダうどん、プリン
- ・8/8(金) 夏野菜カレー、ヨーグルト



真剣に学習しています。



7日のメニュー

『東部中学校3年生 伊那まつりに出店！』



8/2

東部中学校の3年生は、「総合的な学習の時間」に、「文化」・「自然」・「産業」・「暮らし」の4つのグループに分かれ伊那市の魅力と課題について、学習を進めています。「文化グループ」の「伊那まつり」を探究しているグループでは、事前に実行委員会事務局長の工藤陽介さんから、伊那まつりの歴史や意義、コロナ後の復活の苦労や予算などについて話をお聞きしました。そして、実際に自分たちが伊那まつりに出店することを通して、お店を出している人や楽しませる側の思いに寄り添いながら、伊那まつりのあり方を考えていこうということになりました。

お店が開かれた8月2日（土）午後3時の伊那市の気温は35度を越えていましたが、生徒の皆さんは、それぞれ設置した4つのコーナーでおまつりを楽しんでもらおうと元気いっぱい呼び込みの声を出し、来店した子どもたちに優しく丁寧に接していました。この収益は、伊那市子どもの未来応援事業へ寄付し、学習の成果は、9月のすず竹祭や2月の参観日で発表される予定になっています。このように、伊那市の魅力や課題を学習することで、将来伊那市の様々な活動に関わっていこうという気持ちが育まれていくことと思います。



スーパーボールすくい



輪投げ



ヨーヨーつり



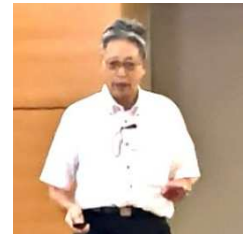
ジュース自販機ロボット？



少年の塔(伊那公園)

伊那市人権同和教育研修会 8/7

『満蒙開拓青少年義勇軍とは何だったのか？』



講師の 矢澤静二 先生

伊那市役所において伊那市人権同和教育研修会が行われ、講師の矢澤静二先生（元上伊那教育会長、現日本教育史学会会員・「伊那市誌」編纂委員）が「満蒙開拓青少年義勇軍とは何だったのか？」と題して講演し、市内小中学校の教職員36名が聴講しました。

上伊那の義勇軍送出率（割当人数に対する送出人数の割合）は、昭和13年～15年は非常に低いのですが、16年以後上昇に転じ、終戦まで非常に高い割合で送出が続きました。その原因は、「二・四（教員赤化）事件」と「上伊那教育会事件」からの名誉挽回のために、教育会や教員が必死になって子どもたちを義勇軍に送り出したからでした。教員に勧められ子どもたちが憧れた満州では、訓練の厳しさ、極寒、空腹など非常に辛いものでしたが、やがて10町歩以上の自作農となれることを夢見て頑張ったのです。しかし、8月9日、ソ連の満州侵攻後は、生き地獄ともいわれる過酷な逃避行と収容所生活を強いられ、多数の人たちが命を落としました。国策として送出された義勇軍でしたが、あらためて「義勇軍とは何だったのだろうか。」と考えさせられました。矢澤先生は「これから生きる人間が、戦争というあつてはならない歴史を繰り返さないためには、歴史や体験者に学び、その学びを活かし、自分がどう生き、いかにして次世代の人々につないでいくか、ということが問われている。」と結ばれ、私たちは戦争について学び伝える責任を自己に問い直した講演会でした。

【感想】 ・戦争の悲惨さを子どもたちに伝えていくことが、平和な時代の持続につながると信じて過ぎていきたいと思います。
・教員は国の政策と関わらずにはいられないけれど、自分が子どもたちに伝えることは本当にこれで良いのか考えることを止めてはいけなさと感じました。
・満州に行くように説得した当時の先生方も上からの圧力でやむを得ずそのような行動をとったのだと思いますが、自分がその立場だったら、と考えるだけで恐ろしくなります。戦争は絶対にあつてはならない行為だと伝えていきたいと強く思いました。